※令和４年度以降入学生用

学校番号	1013

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎演習	単位数	２単位	年次	３年前期
使用教科書							
副教材等	チェック＆演習　化学基礎　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

物質に親しみ、見通しをもって学習、実験などを行い、問題解決の能力と物質を探求する心情を育てる」。化学基礎の学習を終えて、これまでの化学の進歩がどのように生活を豊かにし、学んできた原理・法則が環境維持や循環型社会に寄与するかにも考えを及ばせ、学びを深めてください。
授業は問題集を進める形で行います。まずは自分で問題に取り組んでください。
自学自習した部分と、授業で得た内容が分かるようにノートを作成してください。

2　学習の到達目標

化学的な見方・考え方を働かせ，化学的根拠に基づいて，化学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
(1)理論分野に関しては問題演習を通じて原理・法則の成り立ちや意味を理解し、日常で起こる事象を数学的に問題解決できる能力を養う。
(2)観察実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
(3)各論分野に関しては問題演習を通じて物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活と社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・原則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している	物質とその変化に主体的にかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間まで	物質の構成と化学結合・物質の変化	物質の構成 物質の構成粒子 粒子の結合 物質量と化学反応式	a: 問題演習を通じて、物質の成り立ち、原子の構造・電子配置・結合について理解している。原子量・分子量・式量・物質量について理解している。化学反応式・化学反応式の表す量的関係を理解している。 b: 問題演習を通じて物質を原子の集まりとして考え、物質の三態を、原子の粒子的な観点から、説明・表現できる。物質を物質量との関係でとらえ、考え扱うことができる。化学反応が原子の組み換えであることを考察し、物質を扱うことができる。 c: 日常生活や社会との関連を図りながら、物質について考察できる。	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験
前期期末まで	物質の変化	酸と塩基 酸化と還元	a: 問題演習を通じて、酸と塩基、水素イオン濃度とpH、中和反応について理解している。酸化と還元、酸化剤と還元剤、酸化還元反応の応用である電池・電気分解について理解する。 b: 酸性・塩基性の原因について理解し、その強弱の原因や現象を考察する。酸化還元反応は電子の移動であることを理解して、現象を考察する。 c: 日常生活や社会との関連を図りながら、物質について考察できる。	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度